

復興タウンミーティング(富来会場)

開催日時	令和6年10月6日(日) 13:30~15:30
開催場所	富来活性化センター1階 町民大ホール
出席者	町民27名

議事内容及び要旨

【テーマ】

『人が帰る 元に戻る 町を変える ～次世代と一緒に考える～』

【開会】

【町長挨拶】

稲岡町長が発災以降の町の対応等について挨拶

【復興計画の説明】

村井企画財政課震災復旧復興創生室長

【質疑応答】

司会

ここで、今ほどの町復興計画に関する質疑応答を行いたいと思います。どなたか、いらっしゃいませんか。

参加者 A

復興計画の中に河川改修という項目が一つも載っていなかったと思うんですけど、何ページに掲載されていますか。今、聞きたいのは、地震により、富来川の方が大きく地割れとなっており、9月の大雨の際、あと30分か1時間雨が続けば、氾濫していたんじゃないかなと思います。氾濫すれば富来地頭町地区、富来高田地区すべてが床下、床上浸水の状態となっていたと思います。その辺を見直ししていただき、町から国・県に要望して整備していただきたいと思います。特に富来領家町の方におきましては、倒木、大きな木がたくさん生えていて、いつ倒れてもおかしくない状態になっており、道路までかかっています。皆さんの目で現場を見ていただいて、判断して計画していただきたい。これは町にはずっと要望しているが、一度も整備していただいている。今後、河川改修については、そう言うことも踏まえて、考えていただきたい。

村井企画財政課震災復旧復興創生室長

河川改修については、概要版 11 ページの「復興方針3 災害に強く住み続けられるまちづくり」の趣旨部分の前段の4行目、公共インフラ等の強靱化という意味に包含されるという言い方になろうかと思えます。

山内まち整備課長

富来川、今回、震災におきまして非常に護岸が崩れまして、それに護岸縁を通る町道の方も非常に破損状況がひどい状況となっており、河川の状況が非常に危険ということで、2級河川の県管理の護岸でございますので、県の方も早急に国の査定を受け、現在、一部工事の発注を行い、護岸の整備している状況でございます。ご質問にありました富来川の整備については、県が中小の河川の浸水想定区域というのを示しまし

た。これを受け、町の方でもハザードマップを作成しようということで、洪水ハザードマップを手掛けていたところなのですが、震災のため、現在ストップしている状況でございます。

国、県の方も今回の震災を踏まえて、ハザードマップを作るうえでの浸水想定区域の見直しも考えられるということで、現在ストップしているような状況でございます。河川の整備には30年とか、非常に長い時間がかかるような状況ございまして、今後、町としても県にこの辺を踏まえた要望をしていきたいと思っております。

石田県議会議員

富来川に関しては、県の管理で、大橋から少し上流までの工事の発注は済んでいます。これから準備段階に入ると思っています。関係区の区長さんには挨拶に行くと思っておりますので、都合の悪ところがあればおっしゃっていただきたいと思っております。災害査定、急いで県職員もやっています。順次、来年度以降、工事の発注が出てくることと思っております。どうしても緊急性があり、問題のある場所があれば、後ほど教えていただければと思います。

参加者 B

復興の理念「かえる、志賀町」と見させていただいたわけですが、6ページの復興方針3 災害に強く住み続けられるまちづくりとありますが、今回、私たちの町、このような大きな震災の中で一番取り上げなければならない問題は志賀原発。大きな事故がなかったと聞いておりますが、現実にあの地震で、逃げる場所もなければ、道路も被災して、全く動けない状況の中で、町として志賀原発をどのように捉え、そして、これから再稼働していくにあたり、私たち町民の本当の安全を守る検証がされているのか。復興計画にも全く原発問題が入っておらず、これについて答弁をお願いします。

上滝環境安全課長

原発のことは復興計画には入っていないということですが、おっしゃることはごもっともであります。現在、国の方では原子力災害対策指針を見直しております、それに基づき、町としても、地域防災計画の見直しなどを行っていかねばならないと考えております。現在の避難路は、富来地域は奥能登に逃げる、志賀地域は白山市の方に逃げるとなっていたわけですが、その辺は道路の強靱化ということが全くもろく崩れ去ってしまったということで、国に道路の強靱化について強く要望しているところでございます。

それから、地域防災計画の見直しについては、確かに、避難行動、住民の避難行動を詳しく検証し、早急に見直して、この地区はここに避難する、この地区はここに避難する、そういった指針を町としても早く作っていきたくて考えております。

参加者 B

私たちの稗造地区は、避難する際には穴水方面へ行けばよいのですが、現実はずべて道路が崩れて寸断されてしまっている。では中島の方へ行けばと言えば、もちろんそちらの方にも行けない。そのような現状の中で、本当に真剣に避難道路というものを考えているのか、非常に疑問に思っています。しっかりとそのことを国、県、町を挙げて考えていただき、安全を確保していただきたい。

また、私たちの町にとって大きな問題は志賀原発。この稼働についても、私は反対はしませんけれども、完全に安全性が確保される、その答えが出た、その中で、町民も安心して生活していける、そのことを考えていただき、これから先、進めていただきたいと思っております。

上滝環境安全課長

原発の安全性といったことを含めまして、北陸電力とも、適正な情報公開であったり、今回の地震の際に間違った情報が流れたりしましたので、しっかりと連携を取りながら、町民に対して、正確な情報を出していきたくて考えておりますので、ご了承いただきたいと思っております。

稲岡町長

今ほどのご意見につきましては、発災以降、たくさん寄せられております。そういった住民の心配の声を、今、国の方に何度か足を運んで訴えていますし、こういった事例、今回の能登半島の地震は、全国どこでも起こり得るということで、同じ立地自治体とともに、同様の避難経路の強靱化、多重化等を含めて、今後も引き続き訴えてまいりたいと思っておりますので、ご理解をお願いします。

参加者D

具体的にどういう方向性で考えておられますか。現実的に、中島と穴水、門前、全部道が落ちて、今後もダメだと思います。唯一残っているのは、大阪山トンネルしかないんです。あそこが落ちたら、私たちもう孤立です。なので、あそこが一番強いはずなので、あそこのトンネル、そこから先の熊野の道、そこは確実に避難できる、私たち南に逃げるしかないんです。北は無理です。なので、その方向性をしっかり出して、町民に説明していただければと思っております。

稲岡町長

貴重なご意見、ありがとうございます。今ほど言われるとおり、南に行くしかないということですが、今回、北の方に逃げると、北はさらに地震の被害が大きい場所になりますので、さまざまな今後の想定を考えて、逃げる場所、どこが逃げられるのか、そういったことを多重化していくということで、今後国とも、志賀町だけで協議してもこの話はまとまりませんので、広域的な議論が必要かなと思っておりますので、引き続き議論していきたいと思っております。

【シンポジウム】

小中学生、高校生、商工会青年部、小中学校PTAの若い世代の皆さんから志賀町復興計画に対する意見を発表してもらい、その後、ご参加の町民の皆さんを交えて、今後の復興に向けたまちづくりについて意見交換を行いました。

コーディネーター 西野 辰哉さん（金沢大学教授、復興計画策定委員会委員長）

（復興計画に対する意見発表の要旨）

富来小学校6年児童代表 安井幸樹さん

僕からは、町を変えるという視点でお話したいと思っております。現在、富来には子ども達が遊べる公園がありません。小さい公園があっても、草が生えているところは、工事をしていて使えません。また雨の日など、天候が悪い日に集まって遊ぶ場所がありません。そこで、雨の日でも遊べる施設や、子どもが遊べる公園などの公共施設を、富来に作ってほしいと思っております。もし、実現したときに、3つのメリットがあるのではないかと思います。

1つ目が運動不足の解消につながると思います。今は遊ぶ場所がなくて、友達と家でゲームやYouTubeを見る時間が増えていると実感しています。遊ぶ場所があると、そこに集まり、鬼ごっこなどをして体を動かし、運動することができ、また、他の学年とも交流もでき、さらによい人間関係も作れると思います。

2つ目は、学校の活動にも利用できることで、学校活動の幅が広がると思います。富来小学校では、縦割り班で活動もしています。縦割り班でその施設を利用してイベントを行ったり、児童会主催のイベントで活動できると思います。学校活動の幅が広がり、さらに充実した学校生活を送ることができると思います。

3つ目は、きちんと整備された公園や施設があると、家族も安心して遊びに行かせることができると思います。また、家族でも利用することができる、家族とも楽しい時間を過ごせると思います。ぜひ、富来に子どもが遊べる公園や雨の日でも遊べる施設を作ってほしいと思います。

富来小学校6年児童代表 三谷芽衣さん

私からは、「町を変える視点」と、「元に戻す視点」をお話します。まず、「町を変える視点」についてお話します。私たちは1月1日に大きな地震を経験しました。また、先日の輪島市で大雨災害が発生しました。その経験から災害に強い富来のまちづくりを行えばよいのではないかと思います、災害に強い富来のまちづくりについてお話します。具体的にどんなまちにするかは2つお話します。

1つ目は断水になりにくい富来、独自のシステムの構築です。地震後、一番困ったのは水です。富来の水は、現在、河川の水を利用しています。水源から遠い富来では、なかなか復旧が進みませんでした。富来に水源を確保し、独自のシステムを作ることができれば、断水になっても早く復旧すると思います。

2つ目は、充実した避難所を作ることです。私が避難したところは、地域の方々が食材を持ち寄って2日間過ごすことができました。しかし、本当に大津波がきていたら、食料や水を取りに行くこともできませんでした。そこで5日間生活できる程度の食事や水を確保した避難所を作ればよいのではないかと考えました。また、大規模な避難所をつくることで、富来に住んでいる住民が避難できる場所も確保できればと思います。このようなことが実現でき、災害に強い町になると、住む人が増えることや、戻ってくる人がいることも期待できます。

次の視点についてお話します。数年前から富来の飲食店が年々減り続けています。家族で外食することなど、七尾や羽咋、金沢といった時間がかかるころまで行くこともたくさんあります。そこで昔のように富来に飲食店がたくさんあるように戻ればよいなと思います。飲食店が増えると、大人の働く場所が増えることもメリットです。また、遠くに行かなくても気軽に食事ができることがメリットです。少しでも私たち小学生の思いが実現できると嬉しいです。

富来中学校生徒会会長 東ゆりさん

私は、1月1日の地震で自宅が壊れてしまい、半分使えない状況です。また道路がガタガタになってしまい、現在、かほく市に住んでいる私は、毎日の通学のとき困ってしまうことがあります。創造的復興リーディングプロジェクトの1番に、「復興のシンボルとなる複合型の避難所施設と防災公園の整備」とあります。震災後、施設が壊れたり、大きな駐車場や広い場所が仮設住宅に使用されたりしている状況です。そこで、富来地区の人たちが行きやすく、富来の知名度も上がると思われる、次の6つのことを備えた施設をつくっていただきたいと思います。1つ目は、災害時に多くの人が避難できること。2つ目は、

お店が営業できるスペースがあること。3つ目は、子どもの遊ぶスペースがあること。4つ目は、イベントが開催できるスペースがあること。5つ目は、天候関係なく使用できるスポーツスペースがあること。6つ目は、まちのシンボルとなるような内装になっていることです。名称は「富来ドーム」というのはいかがでしょうか。

富来中学校生徒会副会長 飲信太郎さん

創造的復興リーディングプロジェクトの5番に、「公共施設の再編・再整備」があります。震災の影響でホッケー場や地域の遊び場などに仮設住宅が建てられ、子どもの遊び場所が減っていると思います。また、フレアや富来野球場も使えない状況です。そこで、今後に向けて、次の4つのことを提案します。

1つ目は、志賀地域までのバスの交通量を増加してほしいです。志賀地域まで行けば、プールなど子どもが楽しめることがあるからです。

2つ目は、フレアの再編です。まずは、僕の弟が震災前はフレアで習っていました。今はフレアを使えなくて、泳ぎたいと家で話しています。なので、そのような気持ちを持っている子どもが多いと思うからです。

3つ目は、スケボー場の建設です。理由は、震災前、僕の友達がスケボー場が楽しみだ、応募する名前も決まると話していたのに、工事が止まっているからです。

4つ目は、富来小中学校の整備についてです。今の校舎では、移動教室の際、1階まで降りて、特別棟の3階に行くのが大変なので、2階の渡り廊下の修理をお願いします。新校舎については、小中学生が触れ合えるスペースをぜひ作ってほしいです。

志賀高校生徒会会長 佐渡千洋さん

僕はスポーツによって町を明るくしたいと思っています。フロアボールという室内スポーツをしています。U19 日本代表に選ばれ、先月にソロモン諸島でアジア・オセアニア予選に出場してきました。結果、1勝2敗で予選敗退となりましたが、色々なことを学べたのでよかったです。町にお願いしたいことがあります。エアコンがついている体育館を作っていただきたいと思っています。理由は、今、暑さで熱中症のリスクがあり、楽しくスポーツができないので、エアコンがついている体育館で楽しく、みんなでスポーツをしたいからです。

富来商工会青年部監事 中島正士さん

小さい子どもがいるので、子どもが遊べる場所が、今後、復旧の後、復興の段階であると子育て世代からしてもすごくありがたいなと思っています。怪我をしたからではないのですが、健康維持できるような、お年寄りでも健康維持できるような施設も、この際、このエリアに盛り込めるといいのではないかと考えています。「オフグリッド型のインフラ施設等の整備促進」というところでは、いろいろな自然エネルギーがこの町にはあると思うので、それを取り入れた道の駅とぎ海街道周辺のオフグリッドの宿とか、オフグリッドを入れた道の駅とか、そういった自然エネルギーで施設を作ると、先進的なエリアとしても見れるのではないかと考えています。移住促進というところでは、自分たちの集落では、もう家が駄目で、他地域の羽咋や宝達志水町とかの空き家をすぐ買って、そこに住んだという事例がいくつも聞かれたので、この地震があつてから、この地域でまだ使える空き家が残されているのではないかとこのところでは、奥能登で被害に遭われた方が、南下してこの志賀町に住むということも可能性としてはあるので

はないかと思っています。空き家バンクの充実で、登録のハードルを下げるというか、どうやったら登録してもらえるか、検討したらいいのではないかなと思います。

富来小学校 PTA 副会長 藤田奈那さん

町に対する“親としての目線”、そして、“働いていくにあたっての視点”で、意見を出させていただきます。今回の能登半島地震が起こって住民の生活も大きく変わっています。私の知人も、もう家が駄目になったということで町外に出て行って、そのまま町外で住むということで、いなくなっている方もいます。ただ、やはり昔から住んでいるところなので、子ども達の思いもあって、私たちの家族は富来地区に住み続けることにしました。でも、住んでいる家がダメになってしまったので解体もしていただき、今は更地の状態です。やっぱり、周りの近所の方もほとんど解体していなくなるということなので、本当に周りがポツンという状態になります。それでもやっぱり人が増えてほしいという思いはあります。先ほど子ども達も言っていたのですが、遊ぶ場所、体を動かして発散させる場所というものがほしい、公園もそうですし、屋内施設というものもあってほしいなという思いがあります。遊びや勉強、子ども達が安心して過ごせる、親も安心して送り出せる屋内施設がほしいなと思います。

あと、能登中核工業団地で仕事をしているんですけども、道路、いろんなところを直していただいているのですが、やはり道がひどく、車の運転もしづらい状況が続いている。細かいところですけど、実家の方も断層がどんどん広がっており、すごく怖い、トイレも怖いというところがあるので、またそういったところも見てほしいなと思っております。あと働く人が増えて、人口が増えてほしいというものもあるんですけど、今、就職支援を行っていただいているので、勤めている会社にも結構応募とかもきていますので、このままどんどん働く人が増えるように支援をしていただきたいと思います。

富来中学校 PTA 副会長 磯美奈絵さん

元日の震災から9カ月が経ち、あちらこちらで建物がやっとな壊されてきました。私の家は建物も家族も被害はなかったのですが、被災されている方たちの思いを代弁できるか分かりませんが、今思うことは、富来に残っている人も、富来から離れなくてはいけなかった人も、一人ではない、一人にしてはいけないことが課題だと思います。この震災で地域コミュニティが壊れかけていると思います。人と人とのつながりや、地域の見守りは、今後も必要になってくると思います。それならば、人が集まれる場所があればいいと思います。イベントを開催すればよいのですが、一時的に賑やかになるだけなので、日頃から集まれる場所、小さな子ども、大人、高齢者、障がいのある方も、誰もがそこに集まれて、話をしたり、食事をしたり、運動をしたりできる場所、そういう場所もあれば良いと思います。子どもが小さかった頃、富来の図書館に行くと、子どもがおしゃべりしていると怒られたことがありました。この町は子育てしにくいところだと感じたことがあります。公園の草はボーボーに生えていて、煙草の吸い殻やガラスの破片が落ちていたり、壊れて使えない遊具だったり、管理できていない建物ばかりで、せつかく場所があっても、管理しなかったら、結局、皆さん、よその町へ出かけてしまうと思います。富来で生活したいと思ってもらうのが、人が集まれる場所をずっと集まってもらえるように管理しないといけないと思うので、町を変えるのであれば、今だけを見ないで、これから先も継続できる支援をお願いしたいです。子ども達が大人になっても、富来で生活したい、富来に戻りたいと思える町を、ぜひ作っていただきたいと思います。

西野コーディネーター

一通りご意見を伺いましたが、大きく3つ傾向がありました。1つ目は、災害に強いまちづくり、避難所

等を含めたオフグリッド等も含めた災害への強さ、2つ目は、そういったものも含めた普段の子どもさんが安心して遊べる場所づくり、そういったものがほしいという話、3つ目は、それに付随するような形で移住を促進するとか、富来に住み続けられるように地域コミュニティの見守りとかそういったものが大切というところが、皆さんの意見を集約するとあるかと思います。少し私から補足的にお伺いしたいのは、皆さん安心して、子どもが遊べる場所がほしい、雨の日でも遊べる場所がほしいという話でしたけれども、具体的にどんな場所、何して遊ぶのか教えてくれたらイメージが湧くんですけど。雨の日に遊べる場所ってどんな場所だろう。2人に順番に聞いていきます。雨の日、何して遊んでいるんですか。

富来小学校6年児童代表 安井幸樹さん

晴れてる日は外で遊んだりして、雨の日は家の中で遊んだりしています。

西野コーディネーター

今、外で遊ぶ場所、グラウンドがないよということかな。

富来小学校6年児童代表 三谷芽衣さん

仮設住宅の駐車場が空いてるスペースがあるので、妹とよくボールで遊んだりしますが、石がいっぱいあってこけそうなので、芝生にしてほしいなと思います。

西野コーディネーター

中学生になるとちょっと遊び方が変わってくるのかなと思うんですけど、普段どんな風にお友達と遊んだり、時間を過ごしますか。

富来中学校生徒会副会長 飲信太郎さん

僕は野球をしているんですけど、震災前、晴れの日には友達とキャッチボールしていたんです。酒見に住んでいて、酒見構造改善センターってあるんですけど、震災前は、本当に広くて、何でも野球できるとか、たくさんできていたんですけど、そこに仮設住宅が今建ってしまって、キャッチボールがそこでできなくなった。他の場所に行こうとなっても、そこも今、震災でダメになっているので、やっぱり公園とか広くてボール遊びができる場所がほしいなと思います。

西野コーディネーター

高校生ってどうやって遊ぶんだろう。普段、学校ではお友達とどんなことしていますか。

志賀高校生徒会会長 佐渡千洋さん

学校では休み時間は喋ったり、ゲームの話をします。遊んでるってことはありません。

西野コーディネーター

親御さん世代では、移住促進のお話しされていましたが、富来にもし新しい人を呼び込む際に何があったらいいと思いますか。

富来商工会青年部監事 中島正士さん

子育て世代の方が今後も継続して住んでもらいたいというのが、自分のイメージの中では、自分の子どもの同級生が増えてほしいなというのがあります。若い世代が富来に来るとするには、先ほど言われていたような子ども達が伸び伸びと遊べて、知育もできるような施設があると、もしかしたら選択肢の中に入れるのかなと思います。

西野コーディネーター

移住、なるべくこの富来に人が残って、お子さんが育てやすい環境という意味で、学校の改修か建て替えかもしれません。もう1つ子どもが遊べる場所がほしいというご要望があったんですけども、そのほか何か、お子さんの育てやすい環境として、こういうことがあると、より富来のまちが将来的に子育てがしやすくなるのではないかと考えていることはありますか。

富来小学校 PTA 副会長 藤田奈那さん

先ほども言っていた雨の日でも使える施設の中に、遊ぶスペース、子どもは何かしら部屋があれば何だって遊べるかなとは思いますが、先生たちもいるんですけど、友達同士で集まって勉強するってこともあったりするので、子どもに限らず、中学生、高校生の方も使えるようなフリースペースじゃないですけど、そういったものもあつたら、大人も行けるし、子どもも勉強に使えるなと思います。

富来中学校 PTA 副会長 磯美奈絵さん

私は、職場が羽咋市なんですけども、最近、羽咋市に多目的施設で「ラクナはくい」というところができ、あそこは本当に理想的だになっていうか、勉強するような図書館みたいなところがあって、そこにカフェもあって、上の階には子ども達が遊ぶスペースがあって、他にいろんなイベントをすることもできるし、習い事とかもできるような施設なんですけども、そこまで大規模なものではなくていいんですが、そういう施設があるとすごく理想的だと思います。

西野コーディネーター

「ラクナはくい」は羽咋駅前にできた新しい施設だと思うんですけども、私行ったことないんですけど、結構賑わっているんですか。

富来中学校 PTA 副会長 磯美奈絵さん

賑わっているかどうか、私も一回しか見ていないのでわからないんですけど、オープン当時行った時は、広い芝生の場所があって、さらに中にも本当に小さい子どもが親と一緒に遊べるようなスペースがあったので、そこに食べ物の施設とかも入っていたりして、イベントとかも結構していると思います。

西野コーディネーター

一通りお伺いしてきました、意見の中でも外でも遊べるような場所というのは、特にお子さんの世代にとって大事ではないかというご意見をたくさんいただいたところでございます。ここまでの意見等に関して、町長からお話しあればお願いいたします。

稲岡町長

様々な意見をいただき、本当にありがとうございます。西野コーディネーターがまとめていただいた大きな話として、全天候型の子ども達が遊べるような施設ということについては、震災前から出ていた話かなと私は認識しています。ちょうど今、お話しに出た「ラクナはくい」がまさに先行事例として参考になると思っています。町で考えている避難拠点施設は、普段使いができるもの、普段から使っているものが非常時には、避難施設になるという考えであります。今、いただいたご意見を参考に避難拠点施設として、かつ普段から「ラクナはくい」のようにどこまでできるかは分かりませんが、そういったものを目指していきたいと考えております。また、災害に強いまちづくりということで、町として提唱したオフグリッド。グリッドというのは電気とかのルートとか、あるいは水道、下水道をグリッドと言うんですけど、そこから離れたという意味でオフグリッドと言うんですが、管が通ってなくても、どこでも水が使える、水が流せる、電気が使える、そういったものを今、考えている大規模な避難拠点施設に採用したいなと思っています。これによって今回のような災害でインフラ、上水道、下水道、電気が駄目になってもそこだけは使えるという、そういったものを目指していきたいなと思っています。これをもっと小規模なもの、各家庭でも、もしそういったシステムが実際あるんですが、それを導入したいという人に補助金を出していきたいなというふうに考えております。制度としては、詳細は決めていませんが、そういったものを提案して、各ご家庭で災害に備えるということも進めていただきたいと考えております。

コミュニティの維持についてですが、今、申し上げた立派な施設が各地区にあるから帰ってきたいということには、おそらくならないんじゃないかな、もちろん、必要だとは思いますが、そこにはやはり皆さん、地域の一人一人の皆様方が帰ってきたくなるような町、一旦外に出ても、やはり戻ってきたくなるというのは、皆さん、地域の皆さんが作り上げていくものかなと思っています。そういった気運の醸成にも町として精一杯支援していきたいと考えております。

西野コーディネーター

それでは、ご出席の皆様方で、ぜひご発言したいという方がいらっしゃいましたら、ご意見をお伺いしたいと思います。

参加者 E

2014年に志賀町に移住してきて、自営業でずっと町内で仕事をしていましたが、1月の地震で被災し、家が全壊になり、父の家がある京都に2月から一時的に住んでいました。そして9月に、また家族でこっちに帰ってきました。帰ってきた理由は、富来が、笹波が好きだったからです。僕がとても魅力的に感じる場所は、あまり加工されていないというか、自然が多くて、能登地域全般に言えることだと思うんですけど、自然のありのままがそのまま残っており、そういうところが好きで帰ってきました。今、家を新しく建てると思っており、ずっと前から計画していたんですけど、オフグリッドの家を元々やろうと思っていて、京都で自給自足に関し、凄く勉強をしてきて船舶や狩猟の免許も取って準備をしてきました。来年ぐらいにはそのオフグリッドの家を建てると思っています。そのオフグリッドが今回、補助金になるということで、僕も災害に強い家を自分でやって、その輪を能登地区だけじゃなく、全国的にも広めたいと思い、自給自足やオフグリッドに関してのイベントをこれからやっていきたいと思っています。あと食に関して、食料自給率についてもう少し考えてほしいです。志賀町だけでなく、全国的にとっても食料需給率が低いので、今回、米不足にもなりました。米農家さんもずっと頑張ってお米作ってもらっていると思うけど、赤字続きで、そういう農家に補助金出してもらったり、もっと町を挙げて食料自給率を上げていって

ほしいと思います。僕も子どもが3人いて、子どものことを考えると、自然栽培であったりとか、羽咋市でJAが主体として自然栽培というのをしています。無肥料、無農薬、子ども達が食べても安全な食というので、羽咋市がJAと頑張っって主体でやっているのを見本としていただき、志賀町にも食に関して、もう少し考えていただけたらなと思います。

西野コーディネーター

富来のいいところはありのままの自然だと。これはなかなか大事な視点です。やっぱり地域の何が魅力なんだろうというのは、うまく分からないので、そうおっしゃっていただくと、大変ありのままの自然っていいなと、確かに富来の魅力だと思っています。

参加者 F

国定公園の中で遊覧船という観光業を営んでおります。この元旦の地震で観光客が本当に激減しています。震災後の観光のビジョンというものをお話いただけたらなと思います。9月から今行ける能登ということで、全国の方から応援いただいて、ようやくツアーが組まれたところで、奥能登の洪水でまたキャンセルが相次いでおります。また、旅行業者の方々からは、どの道が通れるのか、志賀町に行くには道をどう行ったらいいのか、電車が通っていない地域ですので、本当に私たちのSNSの発信力ではどうしようもないこともあります。元旦以後、皆さん国定公園に来られたことはありますか。今、どのような状態か知っていますでしょうか。昨日は土曜日でいい天気でしたが、午前中は車が2台しか来ていない状況です。

福田商工観光課長

観光のビジョンということですが、復興計画にもございますように、「観光地域づくり」というのが今後、重要になってくるということで、事業者の皆さん、観光協会のみならず、観光協会、登録DMOとして、観光地域づくりの先頭役として舵取りをしていただく形になろうかと思っています。地域の皆さんこそって、行政も当然そうですが、周りの皆さんすべてで観光地域づくりをやっていくというような考え方に基づいて進めていきたいと思っております。

また、情報発信の件については、今、あらゆる手段で、事業者のみならず、色んな角度、形で志賀町に行くことができることを発信しておりますので、ご理解いただくようお願いします。

参加者 G

震災後、子どもボランティアとして従事していました。その中で、親御さんが仕事に行かれて、子ども達がいる場所がないということで、土田地区の小学校で子ども達の居場所づくりというのをしました。そこをきっかけに、子どもだけではなく、各世代の方々、地域のコミュニティというか、本当に全然成り立っていなかったのが、震災をきっかけに、地域の皆さんの居場所づくりを作っていこうということで一緒にボランティアとして居場所づくりをさせていただきました。私の住む地域は、昔から養蚕業が盛んで、小さい頃からカイコを飼っていました。カイコをもう一度復活させたいという思いがあります。考えているのは、使われていない土地に、クワを栽培してもらい、強い土地を作るプラットフォームとか、そこにいらっしゃる方に、カイコを育てていただけたらなというふうに思っています。自分たちで再生してオフグリッドも、そういう形で再生しなければならぬかなという思いでいます。一緒にクワを育ててもらえる方と、カイコを親子で育てていきたいなと思う方とか、そういう方の声も聞いてやっていきたいと思っています。

志賀町のモデルケースになったら、門前の方とか、珠洲の方にも展開していければと、また皆さんのお知恵を貸していただきたいと思います。

西野コーディネーター

今、カイコとかそういった活動、里山の保全というか、里山で昔やっていたことって、実は先ほどうらいオフグリッド、オフグリッドとって、なんとなく新しいもの、カタカナのようなものをこれから取り入れていくような話にもなっていますけれども、もともとそういったものがオングリッドというか、なる前は皆さん自立分散して里山でそれなりに循環して完結していたわけですよ。そういったところをちゃんと正しく見直して、全く昔に戻るわけではないけれども、現代的な生活の利便性も受け入れながら、元の良さ、元の里山の技術的なところを取り戻していくというのは、実は一番大事な復興のやり方だと思っています。そういった活動の中の一つとして、ぜひそういったこともお勧めいただきたいと思いますし、またお話の最初の方に出てきました、お子さんの居場所だとか、生きがいつくりというお話がありました。今日いくつか、雨天時の遊び場所だとか、そういう空間が欲しいというお話がありましたけれども、私はそういう箱を作ればいいというふうに思っていないくて、何らかの人の温もりがないと、やはり人の居場所にはならないですよ。そういったところの重要性も最後にちゃんとご指摘いただいたのかなと思って、大変有り難くお聞きいたしました。

参加者B

巖門や富来の自然に対し、もっともっと自信を持ってほしいと思います。観光はもちろん、食べ物、自然も素晴らしい、皆さんの知恵をいただきながら、もっともっと活性化していく要素がこの地区にはたくさんあると思います。私は孫が7人いますけれども、一緒に海に行き、サザエを採ったり、山で椎茸やなめこと一緒に採りにいくと本当に喜んでくれます。また、金沢の親友も家族連れで訪ねて来てくれ、1組、2組と増えています。その子ども達が富来の自然に触れ、うれしそうな顔を見ると、私もうれしくなります。それだけ素晴らしい人と自然に恵まれた富来地区ですから、もっともっと観光に力を入れて、埋もれている観光資源を活かし、PRして行ってほしいと思います。

西野コーディネーター

先ほど、ありのままの自然のよさというお話がありましたが、本当におっしゃるとおりで、今どき自然ほど価値の高いものはない。残念ながら、そういう社会になってしまいましたよね。そういった中で、富来、志賀町、食べ物もおいしいし、安全なお米とか、そういったことも含めて、すごく価値があると思っています。おっしゃる通り、ちゃんと観光でPRできれば、それこそ、こぞって皆が来るかもしれない。そういうようなこともあり得ると思っています。大事なお指摘ありがとうございました。

参加者H

デザインとか情報発信、コンサルタント、観光地再生、宿泊業の再生というのを主にやっております。富来のスギヨファームさんを使わせていただけないかとお相談しております。例えば、スギヨファームさんには、でっかい施設、倉庫、空き倉庫があり、そこを室内遊戯場にできないかと考えています。先程、子どもの遊び場所がないとお話がありましたが、実際にスギヨファームだと遠いのですか。もしよければ、あそこでボランティアを募って、室内遊戯場をつくれればいいなと考えています。

西野コーディネーター

ご提案、ありがとうございます。

参加者D

この資料を読みまして、人が帰る、町民に帰って来てもらうというのがテーマになっており、アンケートを見ると、震災前と同じ場所、震災前の場所と近くでという方が8割を占めているということで、皆さん、帰ってきたいんです。でも、実際にはもう戻れないなら、金沢に住んでしまうという人たちがたくさんいるんです。ここで、コミュニティの維持、みんなに帰ってきてもらうにはどうしたらいいかというのは、やっぱり元いた場所の近くに帰られるような環境にする。今、緊急避難的に小学校のグラウンドに仮設を作りました。で、皆さんから遊ぶ場所が取られてしまったという話があります。そうすると、やはり、そこは仮設であって、そこを開けてもらわないといけない。もう一つは、仮設に入居する際、違う地域には行きたくないんです。どうしても、自宅の近辺に住みたいと。遠くに行ったらコミュニティが崩壊します。そこでお願いしたいのは、公費解体がどんどん進んでくると、空き地が歯抜けになってしまいます。地頭町も危機的な状況で人がいなくなっても、戻ってくる場所がないので、そうすると、遠くの郊外の小学校とかじゃなくて、街中に災害公営住宅を作ってほしい。歯抜けになった空いた土地に作っていく方法です。そうなれば、帰ってきたい人が帰ってこられる状況をつくることのできるということで、この空き地をうまく活用してほしい。時間が経てば経つほど誰も戻ってこないということで、街の中に差込型の災害公営住宅を作っていただくことをぜひ検討していただきたいと思います。

もう一つは、情報発信です。町のホームページでは、いろんな発信があるんですけども、公式ですから確定したことしか発表できません。馳知事は、「必ず能登のキリコ祭りを復活させる」と言ってくれました。SNSでたくさん発信してくれています。これを聞くだけで、住民はものすごく安心するんです。ぜひ、町長にも自分の考えていること、確定していないことでも構いません。町民に勇気を与えるためにSNSなどで情報発信をお願いします。住民も一緒にまちづくりをしたいと思う気持ちは同じだと思います。今日、参加者はこれだけしかいません。なぜでしょうか。皆さんもしかしたらもう諦めているのではないのでしょうか。自分たちで一緒になって、まちのことを考える気運を作っていただきたい。私たちも一生懸命頑張ります。

西野コーディネーター

いろいろご意見いただいたと思います。町長から何かお話しあればお願いいたします。

稲岡町長

様々なご指摘ありがとうございます。最初に、私の方のSNS等の発信がないということ、これはまさにおっしゃるとおりだと思っています。なかなか発信力、町自身、行政の発信力がないというのは、これも以前から指摘されていたこととして、これは今後強化していかなければならないと思っています。私自身がSNSの発信、これをなるべく発信していきたいと思っているのですが、今言われたとおり、確定したこと以上のことを言ってしまうと、例えば復興基金の用途について、馳知事がいろいろとおっしゃっていることが、まだ確定していないものが流れていて、大きな期待を持たせている。一方で、それが可能かどうかまだ分かっていないという状況も、今後、起こり得るということもあるので、私としては、なるべく確定した情報、もちろん安心していただきたいという情報を流したいという思いはあるんですが、あまり不確定なことは流せないということをご理解いただきたいと思います。

また、住宅に関して、高田の方の災害公営住宅の差込型という件ですが、これ今、国の方、直轄調査で、ハザードエリアの確定をしたうえで決定することになると思いますが、言われたとおり、危険な場所に再度建てるということは、おそらく難しいかなと思いますので、もちろん、地域に建ててほしいという要望、以前、1月、2月早い時期からいただいていますので、その辺りは勘案して、今後考えていきたいと思っています。

参加者D

富来地域の区長の方がアンケートを取りました。これを集約して10月10日に町長にお届けするので、ぜひ見ていただきたいと思います。

西野コーディネーター

かなりお時間も過ぎてしまいました。今日は、町の復興に向けて、たくさんのご提案をいただいたと思います。町の方で、しっかりご検討いただいて、長い道のりにはなるとは思いますけれども、復興に向けて進めていただきたいと思います。それでは、シンポジウム意見交換、これにて終了させていただきたいと思います。

司会

西野先生、ご登壇の皆様、ありがとうございました。

それでは、本日、石田県議にもご出席していただいておりますので、県政上のご報告がございましたら、お願いいたします。

石田県議会議員

県政における令和6年能登半島地震対応について状況報告

司会

それでは、以上をもちまして、復興タウンミーティングを終了させていただきます。本日はありがとうございました。